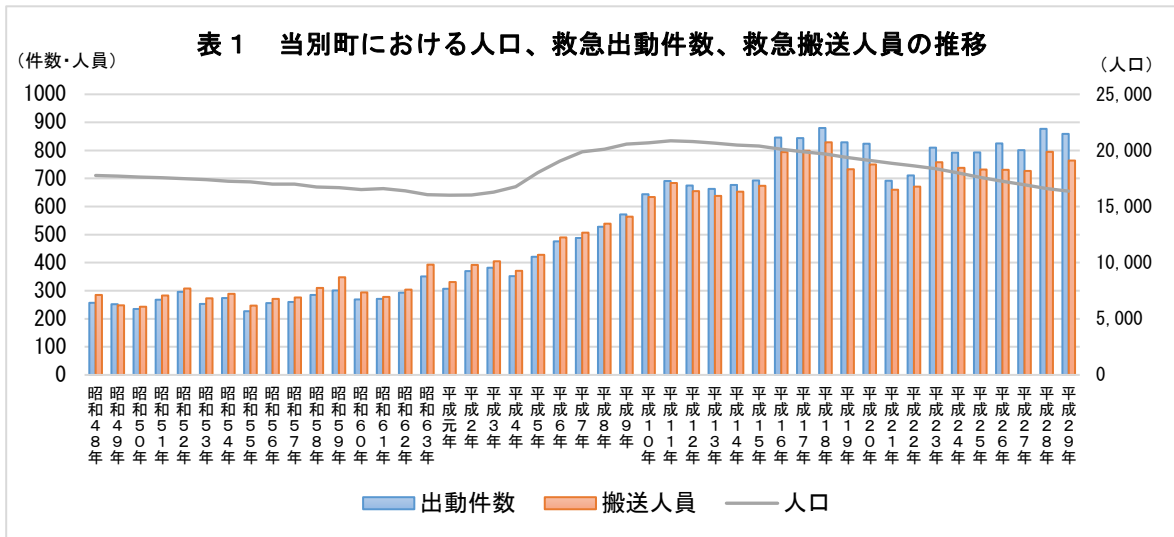


平成29年 救急・救助概要

【救急概要】

平成29年の当別消防署における救急出動件数は859件、救急搬送人員は764名、人口1万人あたりの救急出動件数は524件で、これらの数値はいずれも前年より減少しましたが、表1のとおり当別町においては人口の減少に対し、救急出動件数、救急搬送人員ともに増加傾向となっています。

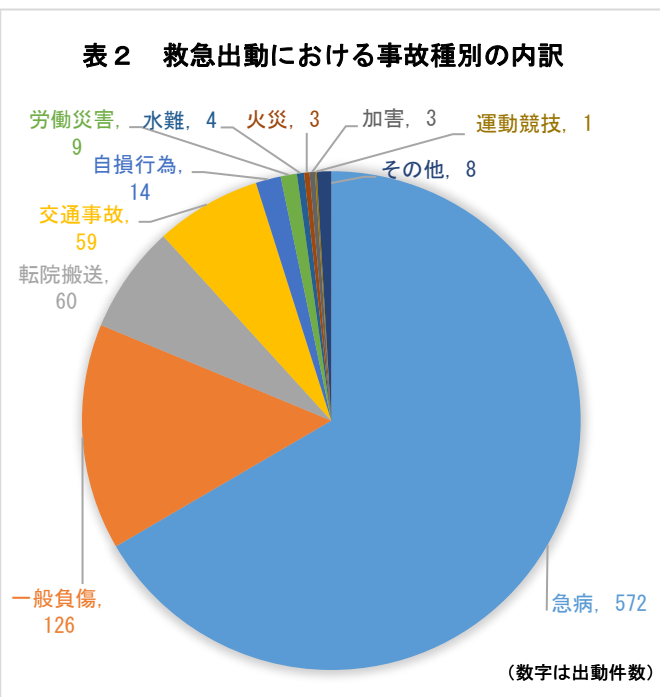
前年(平成28年)の人口1万人あたりの救急出動件数は、当別消防署では528件で、全国平均487件、全道平均461件に比べ多い状況となっています。



救急出動における事故種別の内訳は表2のとおりで、「急病」、「一般負傷」、「転院搬送」、「交通事故」の上位4つの種別で全体の約95%を占めています。

救急出動件数のうち、ドクターヘリを要請したものが22件あり、実際に傷病者をドクターヘリで搬送したのは11件ありました。ドクターヘリは悪天候では飛行不能となり、ドクターカーが出動することもあります。

救急搬送傷病者の程度は、死亡が25名(3.3%)、重症が88名(11.5%)、中等症が325名(42.5%)、軽症が326名(42.7%)でした。



傷病者の搬送先医療機関の市町村別としては、当別町内が14名(1.8%)、札幌市内が650名(85.1%)、江別市内が92名(12%)、その他の市町村が8名(1.1%)で、町外の医療機関への搬送が98%を超えており、出勤から帰署までの平均所要時間は1時間33分でした。



そのため、救急車が町内不在時に、重症事案の救急要請に対し救急車の到着が大幅に遅れるということがあります。重症度が極めて高い心肺機能停止の傷病者への救急出動については34件あり、明らかな死亡所見により不搬送とした9件を除く25件については、救急救命士による必要な救急救命処置を行い病院へ搬送しています。

その主な救急救命処置の内容としては、口の中にチューブなどを入れて空気の通り道を作る「器具気道確保」、血管内に薬剤を投入するための「静脈路確保」、アドレナリン等の「薬剤投与」などといったものがあります。

このほかにも、心肺機能の停止には至っていないがショック状態と呼ばれる重症な傷病者に対して、静脈路確保し循環血液量を増加させる輸液といった処置を行ったものが6件ありました。

当別消防署では、救急車の適正利用を広く呼び掛けています。また、救急出動だけでなく、応急手当と救命処置の知識を町民に普及させるため合計44回の講習会を開催しました。その中でも「普通救命講習Ⅰ」という3時間の講習を合計29回開催し753名の方が受講し心肺蘇生法、AEDの使用方法などについて学びました。

【救助概要】

平成29年の当別消防署における救助出動件数は25件で、救助活動件数は7件でした。救助出動種別の内訳としては、交通事故が16件(64%)、建物事故が2件(8%)、水難事故が1件(4%)、機械事故が1件(4%)、その他の事故が5件(20%)でした。

当別消防署では、町内で発生した25件の救助出動のほかにも他市町村で発生した救助事案に対し合計7件(石狩市へ3件、新篠津村へ2件、岩見沢市へ2件)出動しています。

救助出動した現場で、救助活動が必要だった7件の内訳は、交通事故が4件(14.3%)、水難事故が1件(14.3%)、機械事故が1件(14.3%)、その他の事故が各1件(14.3%)でした。

